

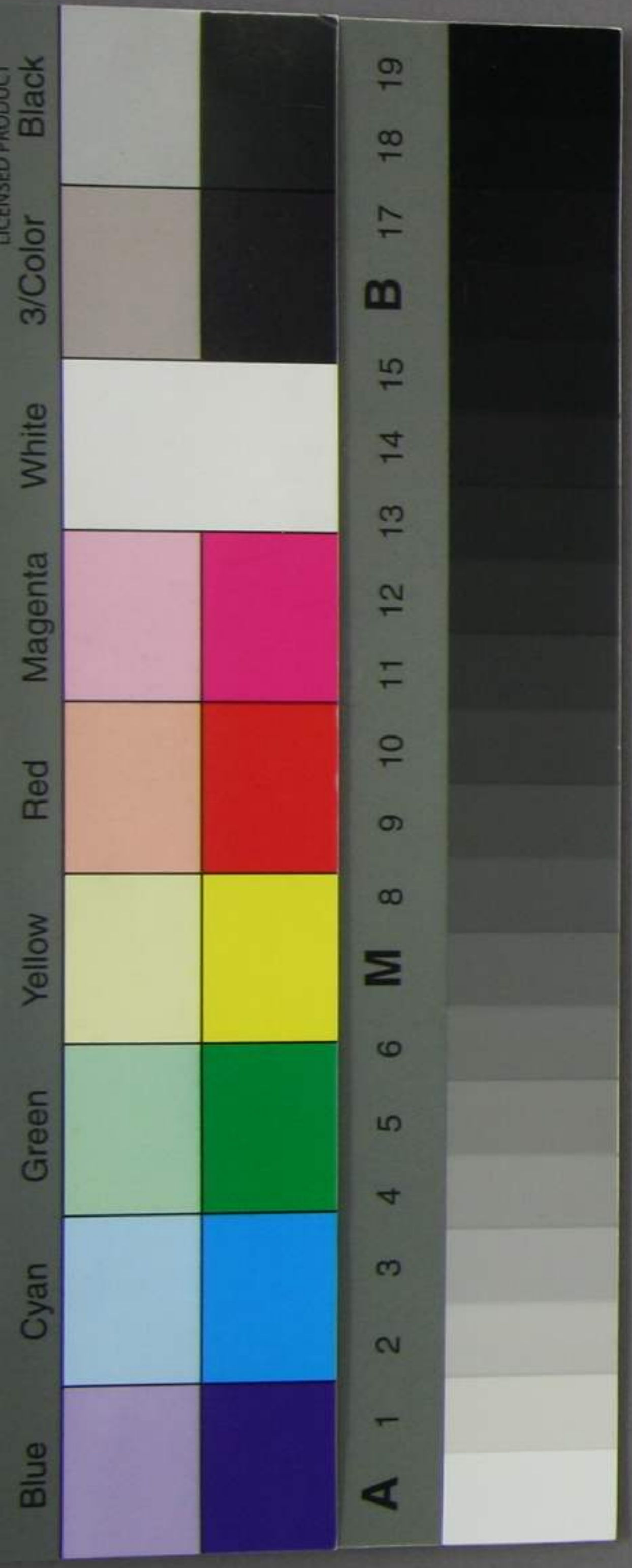
114
A3053



郵便税改正ノ主意 第一

郵便税ハ里程ノ遠近ヲ問ハス總テ其課額ヲ等一ナラシ
 ムルヲ最良ノ法按ナリト宇内開明國ノ皆以テ公認スル
 所トナレリ是レ獨リ一國內ニ於テ良トスルノミニ非
 ス交際各國ノ間ニ於ケルモ而モ善矣トスル所トナレリ
 一千八百七十六年瑞西ベルンニ於テ萬國聯合郵便条約
 ヲ會盟締結シタルモ此義ニ他ナラサルナリ
 抑明治六年ニ於テ小官カ始テ全國ニ郵便ヲ普及センヲ
 奏請セシキニ方リ遠近等一ノ税額ヲ賦セラレントテ冀
 望シタリキ然レモ當時數項ノ困難アルニ因シ止ム死ク
 三様ノ課額ヲ立テ以テ之ヲ奏請シ第一本額第二半額乃
チ一管内及ヒ一市内
郵便第三幸ニ允可ヲ賜テ現行ノ成法トナリタリ
 市外増税
 爾未數年ノ間之ヲ實地ニ經驗セルニ取扱上ノ煩難ナル

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



ハ忍ヒ得ヘキモ為ノニ衆庶ノ紛伝ツ生スル実ニ忍ヒ能
ハサレアリ僅ニ一途一内流ヲ隔ルヲ以テ市外ノ地タルヲ
受取人ヨリ重獲ノ税ヲ或ハ不公平ヲ罵ルアリ村落ニ在
私ハ行政上ノ都合ニ因リ郵便局ヲ廢置スルアリ實ニ鄉村
其廢置アルニ因テ輕重ノ偏ヲ起ス如キハ實ニ鄉村
人民ノ不幸ヲ見ル毎錢ノ偏重税ヲ拂ハサルハオラス之
後ヲ避ルカ為ニ數日已ニ斯ノ如シ而シテ猶未タ其等一税ニ改正アラント
請セス荏苒今日ニ及ヒタリシハ小官カ始メヨリ希圖ス
ル所ハ市外増税ヲ廢セラル、ノ日ヲ以テ今時ニ一市内
及ヒ一地方郵便ノ半額税ヲモ廢止セラレ彼是レ得失相
償ハシメント欲セシニ在ルナリ換言スレハ高キヲ削リ
低キヲ嵩メテ本位ノ税額ニ歸一シ遠近平等ナラシム
ルノ時機ヲ得ント欲セシニ在ルナリ再ヒ之ヲ換言スレ

ハ市外増税ノ法ヲ廢シテ其収入ヲ減スルニ他ノ収入ニ
係ル贏利ヲ以テ經費支弁シ郵便事業ノ退却萎靡ヲ見
サルノ時ヲ欲セシニ在ルナリ國ヨリ取扱役ノ至少俸ナ。
配達人ヲ備ヘサル地ノ最モ多クシテ郵便ノ渋滞スル監
察吏ノ寡シテ業ヲ日ヲ逐テ發出スル等皆是ヨリ整
頓セシムル一着歩ノ今日ニシテ贏利アルヘキ理由ハ万
々ナシト云フ姑ク使ッ先ニシテ此ヲ贏利ニスルノ意ヲ以
テ及ニ贏利ノ言字
熟ニ小官カ其時機ヲ考察セルニ明治十四年ハ則チ之ヲ
熟スルノ日ト思定セリ然ルニ何ソ量ラン財政上ノ庶漠
ニ因リ本年以後ハ十九万円許ノ収入ヲ贏シテ之ヲ國庫
ニ輸セシムヘキ所謂經費減額ノ嚴令ヲ奉シ復々此熟機
ヲ失却セリ市外増税ノ収額ハ年計拾五万円以內ナリ故
大坂郵便局ヲ新築シ而シテ十四年度ニ至リ此金額ニ當
レル収入ヲ減スヘキ豫案ヲ以テ市外増税法ヲ廢止國內
画一ノ郵便税法ヲ制定セラレシテ而シテ再ヒ其機ノ熟時ヲ謀
ヲ奏請セント冀圖善策セシナリ

華 庫

ルニ考察スヘキ豫定ノ期日ヲ得サルニ至レリ何トナレ
ハ是ヨリ以往ハ年々収入ノ増殖スルニ比シテ経費ノ増
加ハ免レ能ハサルノ数理アリテ明ラカニ且情勢ノ迫レ
ルアルヲ以テナラハ則チ徒ラニ之ヲ浩歎ニ付シ去
リ何時カ應サニ此機ヲ熟スルノ期アルヘシト言フニ托
シテ止ムヘキナランカ事務日一日ニ煩擾ヲ加ヘ衆庶
ノ郵便局不所在地 月一月ニ不平ヲ増ス豈其レ当初ノ冀圖
ヲ執リ此緊要事ヲ愆ルヘケンヤ須ク適宜ノ新案ヲ提出
シ以テ先可ヲ清フヘキナリ是レ此ノ郵便税改正ノ儀ノ
以テ起ル所トス

今此ノ新案ノ額領タル唯高キヲ削リ低キヲ高メ以テ本
位ノ税額ニ歸一セシムルノ精神ヲ轉シ市外増税ノ志市外増税ノ志
ニ半税タル志志錢ノ普通ノ貳錢トシ一般從前偏重ナル負荷從前偏重ナル負荷
ニ貳錢ノ本税ニナスヘキ精神ヲ轉ス

税ヲ折半シ遍ク全國ノ人民ヲシテ均一今等之ヲ負擔セ
シムル市外増税ヲ廢シ其志市外増税ヲ廢シ其志但一市内ノ如キハ全般ニ比但一市内ノ如キハ全般ニ比
茲ニ其論ヲ畧ス法トナスノ一項ノミ法トナスノ一項ノミ
蓋シ斯ノ如クニハ市内ノ人或ハ日ニ政府獲利主義ノ為
メニ故ラニ加税ヲ我輩ニ課スト政府拾九万圓許ヲ固果政府拾九万圓許ヲ固果
シテ其理ナシトハ為サルニ違ハ是レ政府國計ヲ匡濟ス
ルノ大策ニ出テ元ヨリ人民ノ恣ニ喙ヲ容ルヘキ所ニア
ラス畢竟郵便税ハ里程ノ遠近ヲ問ハスシテ之ヲ今等劃一
ナラシメ人民互相之ヲ擔ヒ之ヲ資ケ其通信ヲシテ極テ
容易ナラシムル公理ニ照シ毫モ疾シキ
所アル無シ是レ此ノ新案ヲ提出シ敢テ奏請セント欲ス
ル所ナリ

郵便税改正ノ主意 第二

偏重ノ税ヲ折半シテ各平等均一ニ之ヲ負擔スルノ法ヲ
詳説スレハ左ノ如シ

第一

信書ノ郵便税ハ重量ハ從郵便局在市不在市

地ヲ論セ又一市内郵便局所在地往復ニ係ルヲ問

ハス皇國內ハ何レノ地ト云フニ拘ハラス都ニ

貳錢五厘ヲ課ス

現行ノ税額ハ郵便局所在地市ニ連スルモノハ

貳錢郵便局不在地市ニ連スルモノハ三錢一

市内ニ往復スルモノハ壹錢ナリ

此ノ如クナル中ハ唯市外ノ壹錢ヲ折半シテ市内外ニ等
シク之ヲ負ハシムル平均ノ理ニ止マラス市ノ内外ニ全
數ノ郵便ノ癸スルモノトスル中ハ其人其出費ヲモ折半

シテ之ヲ平均スルノ実アリトス但一市内ニ往復スル信書ニ就テハ直チニ志錢五厘ノ重キヲ加負スルニ至ルモ畢竟僅々タル此少数ヲ以テ市外大数ノ偏重不幸ヲ救フノ理ツ会セハ大ニ苦情生スヘキ無シ況ンヤ差出シ方ヲ簡單ニシテ従前ノ紛紜ヲ消滅スル便宜ヲ得ルニ於テヲヤ不足稅重複

第二 新聞紙書籍見本等ノ郵便稅ハ重量ハ從如シ皇國內

何レノ地ト云フニ拘ハラズ總テ志錢ヲ課ス

現行ノ稅額ハ市内ハ志錢市外ハ貳錢一市内往

復ハ五厘ナリ

第一ノ主旨ニ於ルハ此稅モ亦今シク市外ノ偏重志錢ヲ折半シ志錢五厘トナスヘシト虽モ抑モ新聞紙ハ信書ノ如ク其要用アルノ時ノミ稀ニ發スルモノニ非ス毎日

發兌ニ係レルモノハ必ス日々發セサルヘカラス換言スレハ則チ日々必ス此稅ヲ拂ハサルヘカラス故ニ免メテ低稅ノ恩惠アラシク欲ス是ヲ以テ廣ク市外ノ增稅ヲ止メ僅ニ一市内ノ五厘ヲ志錢トナスノミ

第三 葉書ノ郵便稅ハ市内ノ内外ヲ問ハズ等シク志錢

五厘而シテ一市内往復ノモノハ志錢ヲ課ス

現行ノ稅額ハ市内ハ志錢市外ハ貳錢一市内往

復ハ五厘ナリ

是レ亦第一ノ主旨ニ於レハ何レノ地タルヲ問ハズ志錢五厘トナスヘキニ據リ一市内ニ往復ノモノニ限リ之ヲ志錢ノ課額トナセルハ專ラ葉書ノ行ハルハ一市内ノ往復ニアリ公告ヤ理章ヤ注文ヤ皆短文ニシテ足レルモノナリ都府ニ於テハ最モ夥多ノ要アルモノナリ僅ニ五

厘ヲ貴クスルモ其増進ノ歩ヲ支フ故ニ持ニ之ヲ依フシ
以テ増進ノ勢ヲ資ケ合セテ恩惠ノ意ヲ含ム果シテ然ラ
ハ現行ノ税^五ニシテ益々好シ何ソ五厘ヲ加スヲ須ヒン
ト実ニ小官モ然リトス然レモ爰ニ税クムキ一事アリ現
行ノ税ヲ以テセハ政府ニ却テ損失アリ其實計ヲ拳ケン
ニ

葉書原紙彫刻印刷代 一葉 壹厘八毛 賣下手敷料 日五毛
集配料 日壹厘五毛 合計三厘八毛

故ニ余殘ハ壹厘貳毛ナリ之ヲ以テ取扱上ノ諸經費及
運送費等^三支弁ス或ハ不足ヲ生スルコトアリ

果シテ此ノ如シハ何ソ始メヨリ其税ヲ高メサルト是レ
小官カ深ク冀圖セシ所アルヲ以テナリ是レ慣習ヲ養フ
ノ術タルヲ以テナリ其冀圖セシ所以ハ全國同一税ヲ定

メラレ、ノ日ハ等シク壹錢トナルヘキハ論ヲ待タヌ又
壹錢トナルモ慣習已ニ久シキ中ハ之ヲ用ル依然タルヲ
信スレハナリ

第四 地方郵便ノ廢止

此郵便ハ本邦ニ限レル一種特別ノ方法ニシテ其原因ス
ル所ハ地方廳衙ニ其管民ノ願伺等ヲ出ス中及ヒ廳衙ヨ
リ管民ニ指令等ヲ為ス昔日ノ習風ニ依リ皆廳衙ニ出頭
セシムルヲ以テ民ノ費用ハ甚タシク且其事モ遲緩セリ
之ヲ極フノ便法ナリシ^{明治六年五月第百五十九号布達}
見然ルニ今ハ則モ全ク其習風ヲ滅シタルヲ以テ其本元
ニ遡ル中ハ全ク無用ノモノニ歸セリ
尔後其民費節用ノ字ヲ自ラ變轉シテ廳衙ト区^今戸長
ノ間ニ成リ立ツ民費^方變^ト變^ス地ノ節減ニ換リ其郵便

第百
從前ノ
管轄
書ヲ以
郵便ヲ
米テ宜
ハ不苦
第九十
指令
九号
則以
便取

増進ノ歩ヲ支フ故ニ特ニ之ヲ依フシ
スケ合セテ恩惠ノ意ヲ含ム果シテ然ラ
テ益々好シ何ソ五厘ヲ加スヲ須ヒン
トス然レモ爰ニ説クニキ一事アリ現
政府ニ却テ損失アリ其実計ヲ挙ケン
刷代一葉壹厘八毛 賣下手敷料 日五毛
合計三厘八毛
貳毛ナリ之ヲ以テ取扱上ノ諸経費及
支弁ス或ハ不足ヲ生スルヲアリ
何ソ始メヨリ其税ヲ高メサルト是レ
シ所アルヲ以テナリ是レ慣習ヲ養フ
リ其冀圖セシ所以ハ全国同一税ヲ定

寺シク是錢トナルヘキハ論ヲ待タヌ又
習已ニ久シキ中ハ之ヲ用ル依然タルヲ

廢止

限レル一種特別ノ方法ニシテ其原因ス
ニ其管民ノ願同等ヲ出ス中及ヒ廳衙ヨ
ヲ為ス昔日ノ習風ニ依リ皆廳衙ニ出頭
氏ノ費用ハ甚タシク且其事モ遲緩セリ
ナリシ明治六年五月第百五十九号布達
全ク其習風ヲ滅シタルヲ以テ其本元
無用ノモノニ歸セリ

字ヲ自ラ變轉シテ廳衙ト区今ハ戸長
氏費区費ト變ス地ノ節減ニ換リ其郵便

第百五十九号

第百五十九号 太政官布達
従前人民諸願同等聊ノ事件ニテモ其本人ノ戸長差添
管轄廳へ罷出候趣、処自今一通ノ事件ハ可成丈封
書ヲ以郵便ニ托シ管轄廳へ差出シ指令ノ儀モ全様
郵便ヲ以テ本区会所へ相達候様可致セ各地方官ニ
於テ實際見計ヒ本人直ニ持参為致候儀等便宜斟酌
ハ不苦事
第九十七号 大藏省達
指令書并人民願同等郵便ニ可托旨本年第百五十
九号ヲ以テ布告相成候ニ付テハ當七月一日ヨリ左ノ規
則ヲ以テ送送ノ方法相副候条都々規則ニ照準シ各郵
便取扱所へ可差出事

、實際ニ於テモ專ラ此間ノ用ニ供シ今ハ則チ地方稅節
用自稅費混スノ具ナルカ如シ
郵便稅ハ元ヨリ國稅ノ一ニ居ル而シテ國庫ノ費用ニ係
ル政府ノ公信ス之今ハ之ヲ節用スルノ具トナサス何ソ
地方稅ノ節減用ニ之ヲ供スルノ理アラシヤ已ニ中央大
政府ノ公用ハ無稅ノ法ヲ設クル國スラ猶且此種ノ公信
書ハ普通ノ稅ヲ課スルニ於テヲヤ故ニ曰ク之ヲ廢止ス
ト

但國庫ノ支出ニ係ル大政府ノ公信無稅ノ法按ハ他日
建議ニ及ハントス

郵便稅改正ノ主意 第三

已ニ郵便稅ヲ改正スヘキ現面ノ理ヲ論シ畢レリ是ヨリ
又之ヲ改正セハ將來此事業上ノ利益ヲ生シ其利益ハ即
チ公衆ノ通信上ニ直接スルノ利益ニ歸スヘキ實ヲ説ク
ヘシ而シテ其利ヲ稅カシニ先ツ其除クヘキノ弊ヲ述フ
ヘシ
市外ニ達スル郵便ハ幸便配達ナリ故ニ百里ヲ隔ル一市
所郵便局ニ三日ヲ以テ達シ得ルモ其ヨリ僅々一里ヲ去ル
モ一旬ヲ經テ猶達シ能ハサルアリ 隔日以下通信ノ
線路甚タ多シ 佐渡隱岐等ノ如キ大島スラ往復舟路
極テ不定ナリ 各道ノ遞送債額少ナキヲ以テ速度大
ニ遲緩ス 漁船三菱會社ノ便宜アリト虽モ運賃支給ノ
至少ナルヲ以テ其用ニ充テ難キアリ 取扱役ハ俸給

少フシテ其事務多ク之ヲ待ツ輕シテ其責重シ是ヲ以テ
年一年ニ怠倦ヲ生ス 監察吏ノ數不充ナルヲ以テ
各地各般ノ事日ヲ逐テ違則ヲ生ス 大市ノ局ハ隘小
ニシテ事務ノ多キヲ容レズ為メニ紛雜ノ甚シキヲ致ス
是等ハ皆勉メテ速カニ極フヘキノ手段ヲ要スルモノナリ
就中配達支ヲ備ヘス幸便ニ付托スルノ現行法ヲ改良セ
サレハ蓋シ數年ヲ出スシテ郵便ハ便ヲ變シテ不便ノ尤
物トセラル、ニ至ラン

之ヲ極フハ甚タ易シ然レハ之ヲ濟フ、經費ヲ出スハ實
ニ難シ今其レ前議ノ如ク郵便稅ヲ改正アラハ合セテ此
經費ヲ支出シ得ヘシ何トナレハ之ヲ概算スルニ市外稅
ニ係ル拾五円ヲ此改正ノ為メニ減スルモ尚差引シテ或
拾五乃至三十拾万円ノ增收ヲ獲ルナラン 十四年度収入ノ豫算額ニ對シ

若シ幸ニ其計ヲ愆ラスンハ稍五千個ノ配達支ヲ定備ス
ルヲ得ヘシ之ヲ既設ノ郵便局ニ配置セハ最モ當ニ急
ニスヘキノ幸便配達ノ法ヲ改良シテ遅クモ三日以内ニ
配達シ得ヘキ所謂定期配達ノ法ヲ施シ得ヘシ而シテ尔
後ノ年々徐次其增收ヲ以テ其欠ヲ補ヒ合セテ他ノ數項
ノ弊ヲ極ハ、郵便事業ノ利益タル即チ公衆ノ利益タル
實ニ昭々親易キナリ
斯ノ如ク漸々事業ノ歩ヲ整ヘ且公衆ノ使ヲ開カハ果然
十年ヲ出テスレテ本邦ノ郵便一整顿ノ第一段落ヲ見ル
ニ至ラン此時ニ方ラハ政府ハ更ニ下記ノ三項ヲ討議シ
以テ其宜シキヲ制スヘシ曰ク余贏ヲ謀テ之ヲ國庫ニ収
ム曰ク重量ヲ加ヘテ稅ヲ減セス曰ク稅ヲ減シテ重量ヲ
増サスト此三項ナリ小官之ヲ再思スレハ或ハ十年ヲ經

畢
局

ルノ日ハ此三項ハ全時ニ施シ或ハ連年ニ行フハ多ク難
キニ非サルヘシ